

宮前地区タウンミーティング

平成23年12月16日（金曜）

【市長】 皆様こんばんは、野志でございます。今日は平日の夜ですので、お仕事があった方ももちろんいらっしゃったかと思います。また今日は大変冷え込んでおりまして、先ほど、外の気温を見ましたら5度でした。大変冷え込んでいる中、このようにたくさんの方がお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。またこのタウンミーティングの開催にあたりましては、地区の広報委員会の会長さんであります増田会長さんをはじめ、役員の皆様にご協力をいただきました。本当にありがとうございます。

さて、私が就任をさせていただいてから1年と少しが経過いたしました。そして私が就任させていただいてから、松山市政の中で始めたのがこのタウンミーティングでございます。皆さんもちょっと想像いただくと何となくお分かりいただくかと思うんですけど、市役所で職員がずっと座って皆さんがお越しになるのを待ってるほうが楽ですよ。そうじゃないんだ、松山市には何地区あるかと申しますと、北条、中島を含めて41の地区に分かれます。その41の地区で市長の任期は4年でありますので、4年かける12カ月で48になりますよね、1カ月に1回のペースでまわっていこうと考えておりました。しかしながらタウンミーティング今回宮前で15カ所目ということになるんですけど、おかげさまで地区の魅力を教えていただく、地区の課題を教えていただくといういろいろ見えなかったものが見えてまいります。いわゆる気づきがあるわけです。さっそく市政にも反映できたりもしておりますので、ちょっとペースを早めていこうということで、今、まわっているところでございます。そして先ほど申し上げましたように、意見交換でテーマ1「宮前地区の魅力について」、そしてテーマ2、テーマ3が皆さんのお声をいただいてですね、課題、問題点を教えていただくというものなんですけれど、まず魅力についてなぜ一番最初に話すのかと言いますと、41地区があると申し上げましたけど、それぞれに歴史があって特徴があって魅力があるんですよ。その魅力をしっかりととらえて、まちづくりをしていくことが大事なんですよ。よく人は「うちのまちはそんな何もないわい」と過小評価してしまうんですけど、そうじゃない、必ず歴史があって魅力があって特徴がある。

そのまちの魅力をとらえてまちづくりをしていくことが一番大事だと思いますのでまず魅力について皆さんに語っていただきます。41地区の集まりが松山市ですから、各地区がそれぞれ魅力を輝かすと、この松山はもっと、集合体である松山はもっと魅力が出る、輝くということになります。そしてテーマ2、テーマ3では問題点、課題点について教えていただきます。

さて、松山市の仕事ですけど、本当に広範囲になります。例えば、松山市立小学校中学校と言いますとおり教育の問題もありますし、また上下水道も松山市やっております、図書館もやっております、そして競輪場なんかもやっております、坊っちゃんスタジアム、マドンナスタジアムも松山市のものでございます。このように仕事大変に広範囲に広がるものですから、それぞれに専門家がおります。今日は私を含め合計7人、担当の部長課長たち6人来ておりますのでそれぞれ自己紹介をいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します、よろしくお願いたします。このタウンミーティングを統括しております。普段の業務といたしましては、窓口業務、三津浜支所をはじめとする市内の支所と、市民課、市民相談課、消費生活センター、パスポートセンター、こういった窓口サービスの運営と、こういった地域の活性化の仕事、男女共同参画をやっております。よろしくお願いたします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市政策課は、都市基盤の整備で、道路、公園等を担当しております。よろしくお願いたします。

【下水道政策課長】 皆さんこんばんは、下水道部下水道政策課の青木と申します。主に公共下水道の整備、水路の整備、そしてがけ崩れ対策ということで防災対策を消防局と一緒に担当させていただいております。どうぞよろしくお願いたします。

【保健福祉政策課長】 皆様こんばんは、保健福祉全般を担当しております保健福祉政策課の大濱でございます。本日はよろしくお願いたします。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは、教育委員会生涯学習政策課の青木と申します。学校教育とか公民館、あるいは文化財を担当しております。どうぞよろしくお願申し上げます。

【消防局総務課長】 皆さんこんばんは、消防局総務課の岡本です。常備消防、そして消防団、自主防災組織を担当しております。先ほど16時38分に三津二丁目で火災が発生いたしました。今まだ完全鎮火には至っておりませんが、けが人は発生しておりません。皆様には火の元に十分注意していただきますようよろしくお願いいたします。

【市長】 という部長課長たち6人でございます。タウンミーティングは一つしんどいことをしようということを職員たちには言っておるんですけど、このタウンミーティングの特徴がもう一つありまして、やりっぱなしにしない聞きっぱなしにしない、というのがこのタウンミーティングの特徴でございます。そのときだけ皆さんからお話を受けて、聞いたふりをする、やったふりをするっていうのは楽なんですよ。でもこの場でお答えできるものはお答えをいたします。この場でお答えできない、例えば、国と絡むもの、県と絡むもの、また財政的な問題があるもの、そういったものはもちろんできるだけここで答えはするんですけども、国に問い合わせる、県に問い合わせる、その答えが返ってくる、それから松山市としてどうするか検討する、というようなこともありまして、お答えするのが目安として1カ月くらい先になることがあるんですけども、必ず持ち帰らせていただいてお答えをするというのが、この松山市版のタウンミーティングの特徴ですので、もう一つしんどいことをしよう、しんどいことをしたらその向こう側には市民の皆さんの一層の笑顔があるというふうに申し上げてやっているのがこのタウンミーティングでございます。とにかくこの8時半までの時間でありまして、有意義な時間になればと思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします、

【男性】 宮前地区の魅力、我がまちのシンボルに文楽の「伊予源之丞」があります。明治の初めに宝来座としてスタートした人形浄瑠璃の一座で県の無形文化財に指定されております。また、「虎舞」の里としても県内外から知られておるところです。古く、慶長3年1598年から伝わる獅子舞の一種で朝鮮出兵に行った加藤義明が山中で猛虎を捕らえ、その皮と頭を太閤秀吉に献じたことが起源となって古三津「虎舞」が生まれました。全国的にも珍しく、伊予源之丞と共に保存会を発足し、史料などを残し伝承しています。古三津は古戦場としても有名で、刈屋畑の合戦、別名「伊予の関ヶ原」と言われた合戦があったところです。伊予

の歴史に残る有名な史実です。慶長5年1600年9月の戦いでは徳川方の東軍に属した加藤義明の重臣、佃一成、加藤忠明が留守を守っていました。豊臣方の西軍、安芸の毛利輝元に恩義を感じ、忠誠を尽くすことになった河野氏の遺臣達はお家再興と領地を挽回を願って立ち上がり加藤軍とここ、刈屋畑で合戦をしたわけです。加藤軍の勝利となったわけですが、この刈屋畑の戦いで多くの戦死者が出ました。お塚が古三津地区には屋敷内を含めて散在しており、名前がはっきりしているもの、無名の戦死者、区別することなく深く哀悼の祈りを今日も続けております。

平成11年に先人の遺跡を何とかして宮前地区に残そうと言うことで、郷土に関心を持つ有志20名が結成されました。平成8年には「宮前文化遺跡を守る会」として85名で宮前地区78カ所に文化遺跡を守っています。宮前の文化遺跡で主だったものに中西観月庵句碑庭園、藤原住友ゆかりの館跡、住友井戸、駒繁ぎの松跡、また岡田十五郎神社、にぎたつの碑などがあります。伝統ある秋の喧嘩神輿の保存、また記録も継承し、地区全体で支援をしているところです。また、この宮前地区の魅力は、住みよい、生活がしやすい地区でもございます。交通の便が良く、松山空港、松山観光港へは車で20分以内に行ける。また、伊予鉄、JRにつきましては徒歩で10分以内で駅へ行くことができます。非常に住みよいまちでもあります。このようなことが魅力のひとつかと思えます。今日のこの会は今後の宮前地区のまちづくり推進協議会の基礎、参考になるようなご意見を皆さんに出していただいてこれからの宮前地区のまちづくりに役立てたいと思えます。よろしく願いをいたします。

【市長】 文化は海からやってくるって聞いたことありますけれど、やっぱり海に面した三津浜とか宮前っていうのは文化度は高いですね。私、虎舞は見たことあるのですが、伊予源之丞はまだ見たことがないのでできたら近いうちに見たいと思っております。虎舞は、地域交流センターのオープンのときに披露していただいたんですが、虎舞って知ってる方は知ってると思うんですが、今はこういうところですよとか、解説が入るとわかりやすくなるんですね。本論は崩れたらいけないと思うんですけど、時代に合わせて解説が入るとより皆さんが楽しみやすいと思えました。もうひとつ、皆さん自信持っていただきたいんですけど、松山の姉妹都市でサクラメント市があります。そのサクラメント市が松山と交流

しだして30周年のご挨拶に行ったときに、サクラメント州フェアっていうお祭りがありまして聖陵高校の学生さんが虎舞披露したんですよ。ものすごく盛り上がってました。これは万国共通、宝物なんだなと思いましたので、皆さんにも誇りに思っていたらと思います。

【男性】 宮前地区は三津浜地区の影に隠れとる感じがしましてね、三津浜地区も色々頑張っておりますが、今宮前地区の方が人口が多ございますね市長さん。宮前地区が栄えなんたら市は栄えんと私は思っと思つてんです。第一に生活整備でございますけれど、宮前地区の下水道工事が三津浜地区に比べると遅れとると思つてんです。宮前地区の下水道は一応幹線道路は完成しとると思つてんですけれど、あと支線の方が色々予算の関係もございましょうが、ひとつ市民のために、早く促進をしていただきたいの一点。二番目に、改良区とも関連するんですが、県道19号線と旧のJR三津浜駅に行く新田高校との旧道と申しますかね。これが途中でちょうど泉耳鼻科とかそれから木村のクリーニング店から久万の台から下りてくるね、道路の横にかんがい用水路で小さい用水路があるんですが、暗渠といいますかふたをしていただければ、車が多いんですがそこでやっぱり離合ができない。そういうことから整備をお願いできまいかと思つております。

【市長】 下水道のことについて私からまず触れさせていただいて。まず下水道の事業は長期計画を立ててやっているんです。基本構想とか5カ年計画を立ててやっておりますけれど、昔は大きい計画を立てとったんです。平成6年には、年間におよそ160億円を投資して平成32年度迄には下水道の普及率を96パーセントにする整備計画を建ててたんです。でも年間におよそ160億円ですから、あまりにも大き過ぎるといふことで計画変更を平成12年にしました。年間の投資額をおよそ80億円、半分にしたんです。合併処理浄化槽と連携を図りながら、汚水処理の普及率向上を目指してきたところがあります。もう1回、削減をしました。年間平均の投資額をおよそ65億円というふうに。大きい事業をやり過ぎてしまうと、どっかにしわ寄せがくるんで、これはあまりにも松山市にとって下水道計画大き過ぎるってことで削減した経緯がございます。

【下水道政策課長】 もうほとんど大きな話は市長からしたんですが、現在松山市の下水道の普及率が約59パーセント。10人のうち6人が下水道を使っている状況です。当地区は西部処理区に入っており、西部浄化センターから管を延ば

してくる状況になっております。当然三津浜地区始めこちらの宮前地区も現在整備を進めておりまして、第十次となります五カ年計画を策定しまして順次整備しておるんですが、宮前地区の大体の整備率というのが54パーセントで松山市の平均どころとなっております。下水道の整備はどうしても下流から整備をするということで地下に深い管路を入れて、川を作って流していくという整備ですので、下流から順次整備をするということで当宮前地区でも整備は進めておりますので、今後とも効率的な整備に努めながら少しでも早くできるような体制をとっていきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

【市長】 そういう形になります。二つ目ですね、二つ目については。

【下水道政策課長】 離合が難しいということで道路の幅員の関係もあると思うんですけど下水道部で河川水路課、改良区から要望をいただいて、工事をするところでございます。要望ですから順番にということを守っていただくんですが、緊急性が高いところについては現場を見て、ここは早くしたほうがいいということもあれば早急に前倒ししてやることもございます。道路の交通のことですから道路課とも協議をしながら、一度現地を見て対応させていただきたいと思っておりますので、後ほど場所詳しくお聞きしたいと思っております。

【市長】 あんまり水を使わない方からしたら、暗渠にしていれば道路の幅が広がる、人が落ちたりせんって思うんですけど、水を使うほうからすると暗渠にしていると掃除がしにくいとか管理がしにくいという問題があるそうです。だからたちまちが進まないところがあるそうです。

【男性】 西高とか、聖陵とか新田高校の通学の、自転車で行く場合でも、狭いから交通事故になってもいかん。

【下水道政策課長】 わかりました。あとでまた場所をお聞きします。

【男性】 私、宮前地区の防災士の一人であります。23年の11月27日にこの地区で防災訓練があったんです。一環として電信柱に海拔何メートル、みんなが住んどる地域にしたことについてちょっと気になったんですけど、ほとんどが3メートル以下のところに住んどるわけです。4メートル50センチの想定外の津波がきた場合に支所とか西署、西消防署、これらの機能が果たして1メートル未満のところにあるんで、心配なんです。機能が果たして十分にできるんか、対策が十分とれとるんかお聞きしたいです。

【消防局総務課長】 消防局です。11月の自主防災組織の防災訓練どうもありがとうございました。自主防災組織自らが購入して作成した標高表示、宮前地区に119カ所していただきました。私も見させていただいたんですが、一番高い標高が22メートルで一番低いところが伊予鉄の三津駅の北側が80センチメートルのところがございます。という中で、1メートルくらいのところが数多くあるというご意見ですが、その中で西消防署と支所の機能が果たせるかというところですが、今の、国、県の被害想定が津波の第一波が0.5メートル、そして最高が6時間弱で到達する高さが2メートル40センチですが、そういったときには、消防車両は高台に避難させます。そういう対応を常備消防はするようにして災害時に備える体制をしております。

【男性】 いや、今避難場所が宮前の小学校とかね、マグニチュード9のときにどれだけ津波がくるという予測はどういうシミュレーションなさっとんか、東北みたいに15メートルもきたら宮前も三津浜の人も逃げるところないですよ。久万の台いうたって。そういうシミュレーションは市当局はなさっとんかどうか。

【消防局総務課長】 先ほど市長も言いましたように、国が今、大規模な地震を想定した避難計画、避難所の在り方を今年いっぱいくらいで案を出すという検討を進めております。県下の計画がどうであるか、計画どうしなければならないかは県の防災対策の計画の中で定めます。その中で松山市の計画が定まりますので、一定のシミュレーションは検討しておりますが、国、県の計画を見ながら、一元的な計画を作成するように進めているところで、ここがどうというような正確な形の数字は出せない現状です。

【男性】 いやこれね、皆さんご存知のように宮前地区は低いんですよ。宮前川は、内港から津波が来たらいつぺんに宮前校区落ちるんですよ。三杉町なんか特に。その前に何メートルくるやらわからん。そんなことで宮前小学校逃げたって宮前小学校浸かってしまったら皆死んでしまう。

【市長】 私から引き取らせていただきます。まず、津波に関して申し上げますと、国のホームページにも出てるんですけど、津波の高さは海の深さと関係します。速度もそうですけれども。海の深さがですね、まず松山の沿岸であります瀬戸内海と太平洋はまず違います。ですから速度と高さをまったく今回と同じと捉えることは心配し過ぎだと思います。そして、津波の速さ、いつくるのかって言

いますと、そんなにすぐたちまち来るわけではない。まず何が大事かって言うと命を守ることが大事です。で、高台に避難していただこう。それが大原則になります。できるだけ早く高台に避難していただこうということになります。そしてとにかく早く、この計画の見直しを早くというお気持ちはすごいわかるんですけど、今、国が国がと言ってますのは、市が直して県が直してまた国が直してって、もうバラバラになるんですよ。国のしっかりとした基準をもとに直した計画のもとに県も直そう、市も直そうってことをやっています。でも、だからそれまで何にもやりませんっていう話じゃないんです。できることからやっつけていこうということで松山市はやっている。その表れとして松山市は11月1日に危機管理担当部を立ち上げたんです、普通だったら来年の4月1日に発足するんですけど、私自身が3月11日にたまたま東京に出張してまして、震度5の揺れを感じた。あのときは東京で亡くなった方いらっしゃる。私結局羽田空港のロビーで寝たんですけど、そういった経験もしたんで特別な思いがあります。6月にもずっと支援をしてきた宮城県の南三陸町に行ってきた。この間も南三陸町に行ってきたんですけど、できるだけ早く市でできることはやろうとしておりますのであまり心配し過ぎることはないと思います。でも、いざ起こった場合にはできるだけ早く高台に逃げていただくことが肝要です。皆さんにお願いがあるんですけども、松山防災マップが各家に配られてます。今年の3月1日に配られたんですけども、そのあとに東日本大震災が起きました。だから、これが全部無駄になってるわけじゃないんです。例えば50ページ、宮前とか三津浜のどこが避難場所になってます、どこが浸水するっていうのが書かれています。ここの色が、蛍光色が入ってるんですけど、この蛍光色も一つ前の防災マップはえらい派手かましい色だったんです。一般の人が見て目立つように派手な色になってたんですけど、実は目が不自由な方から派手かましい色は逆に見えにくいそうです。そういうことも配慮して愛媛大学の矢田部先生という地震の権威でもある方と相談をしながら作ったものです。もう一つだけ申し上げると、最初めくったところにあるんですけど、何らかの災害に遭遇すると思ってる人75パーセントなんですけど、地震に備えて家具固定をしている人19パーセント、80パーセントの人が家具固定してないんです。75パーセントの人が何らかの災害に遭うと思とんやけれども、80パーセントの人は家具固定はしてない。何か起こるんかもしれんと思

とんやけど、あんまり対策はできてないというところなんで、どうぞ皆さん各家庭に配布してます防災マップで役に立つところ十分ありますので、できる備えはしていただいたらと思います。

【男性】 私も自主防災ネットワークの宮前地区の連合会の役員をやらせていただいております。まず市にお礼を申し上げたいんですが、高齢者向けの救急時のキットにつきましては早速9月1日から始めていただきましてありがとうございました。私も高齢福祉課に1年前くらいに同じようなものをお願いにあがりまして、早速実施をしていただくことになりました。本当にありがとうございました。先ほどの津波の対策について話がございまして、いつでしたか報道によりますと、松山市の学校関係の耐震化率が四十数パーセントで全国の四十数番目で非常に耐震化が遅いということを知りましたが、今後のポリシーをお尋ねしたいと思います。

【市長】 耐震化は、大きく3つあります。小中学校の耐震化、小学生や中学生長い時間過ごす場所ですから、そういうところは耐震化しましょう、小中学校の耐震化。公民館の耐震化をしましょう。そして消防団のポンプ蔵置所、いざっちゅうとき出て行けないと困りますから。小中学校の耐震化、公民館の耐震化、そしてポンプ蔵置所の耐震化、大きく3つの耐震化をやろうとしています。で、今回大きな地震もありましたのでこれを前倒しして進めているところです。

【生涯学習政策課長】 教育委員会です。小中学校の耐震化につきましては、平成19年1月に松山市学校施設耐震化推進計画を建て、災害時の避難場所になります小中学校の体育館をまず耐震化しようということでこれは平成20年度にすべて完了しました。そのあと、特に耐震性の低い校舎から耐震化を進めていこうということで、第一次校舎緊急耐震化事業として進めており、小中学校につきましては今の予算の執行をすれば80パーセントを超える段階になっております。先程言われた四十何パーセントというのは県立高校とかじゃないかと思います。小中学校については80パーセント超えるところまでいっており、あと第二次の耐震化計画を今年からスタートさせ、10年くらいはかかるんですけど、それまでには100パーセント耐震化を達成したいということで進めております。公民館につきましては、耐震化の調査をしまして、41館地域公民館あるんですけど、8館が耐震性能が低いということで今年度から28年度にかけて耐震化をし

ていこうという計画を作って、東雲の公民館が一番目で、耐震化工事をする予定になっております。宮前は、実は昭和52年に造られたんですけど、耐震性能は十分満たしております。ですから耐震性能の低いところを優先的に工事をさせていただくのでご理解いただければと思います。

【市長】 宮前の公民館のこと言うとどよめいたんですけど、何か公民館のことであつたらどうぞ。この流れなんで。

【男性】 ここの公民館、昭和51年の3月に完成したと思うんですが、いろんな工事をするときにこの屋上に物を乗せるのはどうかという話をしたときに、この天井はもろいというお話がございました。そんなんなら新しいのを建ててほしいと言ったら、国庫補助をもろとんで60年の国庫補助の期間がまだ三十何年残つとるからだめであるというお話をいただいたんですが、ここの公民館は借地と古三津の土地とできております。その借地いうのはお寺です。今、お寺も色々建物もできておりますが、駐車場もないし、駐輪場もお寺のを使わせてもろとるといふ非常に肩身の狭い思いで人々が集まっておるところでございます。これについて市としての方策はないのかと市長さんが変わるたびに言よんですけど、いつもその国庫補助の問題でいかんという話なんですよ。だから今度の館長さんも引き継いでやっぱり困っておられると思うんですが、何とか市長さん、地域の中心のこの宮前公民館の建て替えとまでは言えんにしても、せめて自動車の2、3台でも置けるような土地とか色々考えていただければ大変ありがたいと思います。

【市長】 はい。たくさん拍手が。皆さんそういう思いで。確か耐震基準は昭和57年で線引きされたんですよ。ですから、昭和51年に建てられたこの建物が耐震基準満たしているのは大変頑丈な建物造られたんじゃないかなって認識をします。ちょっとできることを言って差し上げてくれませんか、宮前公民館でどういうことができるのかを。

【生涯学習政策課長】 駐車場の確保は、新たに土地を購入してというのは厳しい財政状況の中なかなかできないんですけど、何か修繕とか、直すところがあるんでしたら公民館通して地域学習振興課ですとか学習施設課のほうに申請していただいて、予算の範囲内で手直し、修繕が可能かと思しますので、ご連絡いただければと思います。

【市長】 その辺は遠慮なく言ってもらったらと思います。

【男性】 向こうのお寺とここの建物との西の境界線が、間があいとったんですよ、建築当時は。ところがお寺も色々な行事があっただんだんこっち寄ってきたためにこちらの壁とお寺、もちろんお寺の土地ですから、寄ってきたときに、雨の問題とか色々問題があっただけで西側が非常に雨漏りが激しい、染み込んでくるわけですよ。市にもお願いしてもなかなか雨漏りの水の漏れてくるんについては修復が難しいということでもいつも困るとるわけです。例えば下の畳の部屋の畳が湿気るとか問題も起きまして非常に困るとるんですが、今おっしゃったように徹底的にやっていただけるんなら大変ありがたいし、整備していただきたいと思います。

【市長】 わかりました。私から一つ。駐車場はどんな状況なんですか。

【男性】 こちらの方に無料で、好意で使わせていただいております。

【市長】 何台分ぐらいとめれるんですか。

【男性】 詰めて入れれば三十数台くらい、並べておけば二十数台とかそれぐらいだと思います。

【市長】 ほんなら30台としてお寺を利用する人も何台かとめるとるという感じですか。

【男性】 付近の方から常時置いとる方もおいでるんで。

【市長】 常時置いてる方がいる。それはちょっとまずいですね。

【男性】 少ないとき10台ぐらいはある。

【市長】 じゃあその辺が綺麗になるともうちょっととめやすくなる。

【男性】 そうですね。お寺はあんまり使うことない。

【市長】 これ市として認識をしたということで。はい。

【生涯学習政策課長】 修繕とかの関係は実際に見させてもらったらと思います。

【市長】 駐車場の件もさっきの10台っていうの何とか綺麗にできるように。

【生涯学習政策課長】 そうですね。持ち帰らせていただきます。

【市長】 このことは持ち帰らせていただきます。

【女性】 松山市の交通指導員をさせていただいてます。市長さんもこの公民館へ来られる道、細いなって言われたので発言させていただくんですけど。この道は本当に狭いんです。私、指導員ですけど車乗らないんです。でも友達の人に車で乗ってここ通るのも怖い。離合する場所がない。で、そこにまだ消防団のポンプ所があります。今日みたいに出勤しなきゃいけないときなんか対向車がきたら離合

できない。で、新しく建てられたり建て替えられたりしたお家がちょっと控えて建てて下さってますよね。そこが離合できるのかと思って寄ると、大きな石が置いてあって車ガリガリって擦ってしまったんです。それでこれを松山市にお話ししてみたら、そこは道路になるはずと言われるんですけど、道路にしてないばかりに車を擦ってしまう。で、離合できない。今日私こちらに自転車で来たんですけど、そこで対向車が離合できないのでずっととまってるんです。自転車も通れないんです。で、ずっと待ってて、出たり入ったり出たり入ったりしながら、バックしたりなんかしてくれながらやっと通れるという状態なんです。こんなときにもし消防団の出動があったら大変なことになると思うんです。それでできるだけ早く、せっかく控えて下さったお宅のその道路になるべきところ、そこを道路として少しずつでも、一軒分ずつでも整備していただいたらもっとこの道がスムーズにいくし、本当に怖い思いしなくて済むと思います。私のところにも皆さんが電話とかまたうちのほうにそういう話を持ってきてくださるんです。そのとき私も何らかのお返事したいのでよろしくお願ひいたします

【市長】 これは道路の関係ですね、都市政策課長からお話をさせていただきます。

【都市政策課長】 都市政策課です。ただいまの件ですけど、通常家が新築された場合道路の中心から2メートル後退します。その後退部分の取り扱いですけど、後退部分は私有地であっても道路扱いです。例えばその後退部分に建築物を建てるなどした場合は当然規制がかかります。今回の場合石とか置かれとんですけど、これにつきましては建築基準法に規制はないんですけど、市でご連絡いただければ地権者なりお話をさせていただきます。

【女性】 お話しなくても通っていただいたら見えるんで。

【市長】 そうですね、今日の機会に把握させて帰らせてもらったらいいですよ。

【都市政策課長】 はい、わかりました。

【市長】 あとで、場所を教えてくださいませんか。改めて念押しをしたいんですけど。冒頭に言われたこと、家を新築した場合は道路の中心から2メートルがどうなる。この機会に確認しときましょう。

【都市政策課長】 家を新築する場合は4メートルの道路がなければできません。例えば1メートル80センチの道路であれば中心から2メートル下がってもらう。

4メートルなかったら家は建ちません。それ以外は後退しなければ家が建たないということです。

【男性】 建てる時は引っ込めといて、建ててすんだらまた石置いたりする人がおるから、それを見てのけてくださいと。

【都市政策課長】 はい、わかりました。

【市長】 あとでまたすみませんが。

【男性】 もともとは中心から2メートル後退して建築します。その1メートルが更地になつとるわけですね。そこを舗装してもらおうとなると、今、松山市がとってくれない。松山市に提供しないと舗装にならないところが多いんですが今は。昔はとってくれよったんですね。今松山市とってないと思うんですよ。その点ちょっと。

【都市政策課長】 例えば道路にも松山市道、農道がございます。その場合の後退の舗装についてはとる、とらんに関わらず地権者の承諾がとれれば舗装はできます。今言われまじょうに寄付していただければなお、道路として全体的に整備ができます。寄付の制度がございます。今税金かかっているところも寄付していただければ松山市の名義になって税金がかかりません。

【男性】 自分の私有地のままで、なかなか松山市がとってくれないと私は聞いておるんですが。

【都市政策課長】 それについては、ご本人さんが後退部分の土地について市に寄付したいという相談があれば松山市も動くと思います。

【市長】 案外ですね、ちょっと間違っただ話を聞いててそれをそのまま信じ込んでることもありますので、行政に相談していただいたら案外うまくいったりすることもありますのでよろしくお願いします。

【都市政策課長】 ただ、今の市道の場合はそうなんですけど、農道の場合は引き取れるかどうかはちょっとあれですね。農道の場合は。

【男性】 今の関係ですけど、私十何年前に島からこちらに出てきたんですけど、道に出さんといかんで1メートル50センチを出しとったんです。現在は2メートルになっております。家を建てる時に2メートル控えてしたんですけど、最初1メートル50センチ出しとった分は松山市にちゃんとしてくれ言うのに「すぐ対応します」と言いまして10年以上ずっと固定資産税をとられてます。松山

市は「買い上げします」言いましても何も対応してくれてません。今言われたとおりです。まだ未だにしてないです。この間下水道の方が来られたときにそれを言いましたら、ここへ電話して下さいと言いましたけど、対応せんところへ電話したってつまらん言うことで電話しておりません。

【市民部長】 市民部長です。全体的なお話させていただきたいんですけど、多分個別の事情で違う例があると思うんです。例えばこれが市道であったとか農道であったとか、建築するときの例えば寄付して後退したとかいろんな事例があると思いますんで、この場合についてはこれがこうだったと言うよりも、個別で話聞いて持ち帰ってきちんとして回答させていただきたいと思います。多分、こうだろうと言うことと、皆様方が受けた、こうだろうということで交わらなかったら解決につながらんとと思いますんで、逆に言うたら帰るときこんな場合があったんじゃないけど。せっかく我々参っとりますんで持ち帰らせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。終わったあとも我々残っておりますので、差支えなかったらこの場所でこういう事例があったということをお聞かせいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【男性】 石置いとるのを行政で勝手に取りのけられるのか。

【市民部長】 事例を見んといけませんけども、通常の場合は相手方のご理解いただいて撤去していただくのが原則ですけど、そのあたりについても、また個別の事例でお話伺って対応させていただきたいと思います。

【女性】 私もこの宮前公民館までに来る道を塾の帰りなどでとても遅い時間に通るんですが、急な曲がり角にミラーがあったりするんですが、そこには街灯が無くて、ミラーがあっても見えないことがあって、少し怖い感じも受けたんですよ。道的にも全体に暗くて少し怖いので街灯などを増やしていただけたら嬉しいと思います。

【市民部長】 これは防犯灯と言います。通常大きな道に付いてるのが街灯という言い方で、小さな生活道路に付いてるのは今20ワット管で人が識別できる形になっとなりますので大きな道の街灯よりも若干暗いと思うんです。ただ、今、基準があって30メートル間隔ぐらいにいつてるんですけど、だんだん蛍光管が劣化して暗くなる場合があります。新しいのに取り替えるとずっと明るくなると思いますので、町内会の人に、ちょっと暗くなるとるか、もう少し新しとこ付

けてほしいってことを話していただけるでしょうか。そうすると町内会の方が市民参画まちづくり課に話して、現地を確認してやるようにします。町内会に市役所に言ってくれ言うて下さい。できるだけ早く何とかします。

【男性】 まちづくりについて、観光まちづくりという切り口からご提言申し上げます。東港山という小さな山があります。その山麓には句碑がたくさんございます。正岡子規、柳原極堂、富安風生など著名な俳人が詠んだ句碑が14基ございます。それから柳原極堂が晩年過ごした極堂庵などがございます。私たちの宮前文化遺跡を守る会はこの場所を、最も重要な保存地域として活動に邁進しております。NHKのスペシャルドラマ坂の上の雲の三部もあと2回でおしまいです。来年は平清盛ですね。これは瀬戸内海がテーマになると思います。そして観光の目玉として瀬戸内海が大きくクローズアップされると思います。先般市長が瀬戸内・松山構想のタウンミーティングの中で、瀬戸内海が観光資源としてもものすごく魅力があるということ力を説かれておりました。言うまでもなくこの三津、高浜そして宮前地区は瀬戸内海が拓けた大きな玄関口でありまして、松山の瀬戸内海における窓口として、この宮前にある句碑庭園を観光資源、特に今「松山は行く」ということを推進してる。その中の大きな拠点の一つとして取り上げていただいて、ぜひお力添えをいただいてここを整備していただきたいのがお願いでございます。

【市長】 三津の渡しは大変歴史が長くて小林一茶も使ったと言われてます。港山、亀水塚という松尾芭蕉の自筆の句が埋められている塚もあり、非常に俳句色の強いところ、文化度の高いところだと思っております。

【生涯学習政策課長】 俳句のいろんな碑あると伺っております。今実は俳句の里、そのあたりを見直そうという検討もしております。松山市いろんなところに句碑もありますし、宮前もいろんな文化財とか句碑も豊富と聞いてますので、その辺り編集段階で皆さんにご紹介できるものを是非つくっていったらいいと思います。実際、周辺全体整備するとなりますと、皆さんいろんな意見を出していただいてどういうふうにしたらいいのかを、検討いただいて市として何ができるかも改めて考えたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

【市民部長】 それから私からひとつ。色々まちづくり活動していただきありがとうございます。すぐお隣の三津浜ではまちづくり協議会が立ち上がってまちづ

くり計画の前哨として、「子規が愛したまち三津浜」ということで三津浜のいろいろな資源をどうやって活用していくか今住民がいろいろな活動をしております。そういう形で地域の人が気づくと、行政もいろいろな形で関わっていくと思いますのでそのあたりご提案もいただきたいと思います。それから市長の公約で「誇れる地域の宝を磨き笑顔に」ってことで、それぞれの地域に眠ってる宝を、例えば顕彰する試みが具現化に向かって頑張っておりますのでよろしく願いいたします。

【男性】 松山には 600 の句碑がありますがこんなにたくさん集中しているところは他にありません、ぜひ。

【市長】 私から 3 分位頂戴して松山の財政のことをお話しさせていただきます。中四国の中で松山比較的財政は良い方だと言われております。そんな松山市ですけど、1 年間に出て行くお金、歳出って言いますけど、円グラフを思い浮かべていただくと良くわかるのですが、一番大きなウェイトを占めるのが民生費、福祉にかかるお金です。これが 40 パーセントを占めています。この民生費が 1 年間で 50 億増えました。そのうちの生活保護費、これも大事なお金ですけど、1 年間で 20 億円増えたんです。国から地方に渡ってくるお金として、地方交付税交付金とか国庫支出金っていうものがありますけれど、よく皆さんニュースでも聞かれるように国の借金およそ一千兆円って言われています。一億人の人口で割り算したらどれぐらい一人あたりの借金になるかわかりますよね。およそ一千兆円の借金を抱えてる。ということは国から地方に下りるお金はできるだけ下ろしたくない、渡したくないって思いますよね。ですから松山市の財政、これは膨らむことは考えにくい。決まったお財布の中でやり繰りをしていかないかん。で、先ほどの話に戻るんですけども、民生費が 50 億増えたらどこかで 50 億削らないといけない。生活保護費が 20 億増えたならどっかで 20 億削らないといけない。ここで市長これやってや、あれやってや。あれやってやって言われて、はいはいいいですよ。税金も安くしますよ、いうてやったら市長の人気とりとしてはすごく楽ですよ。でもそれをやると、将来の財政は下り坂になるでしょう。将来の子供や孫につけを残すことにほかならないんです。だからといって何もしないわけじゃないです。今、松山外環状線進めてますけど、これは松山はわざわざ中に車が入ってくる仕組みになってるんです。だから高速道路の松山 IC と松山空港の間、これ全国でデータ取って、全国の 24 の拠点空港の中で 4 つだけ IC と空港の間が 30 分以上か

かるところがあります。1つは松山空港、残り3つは北海道の3つです。時間かかりすぎるんです。だからわざわざ街中に車入ってこんでいいように、外環状線をつくるとか、やらなきゃならないものはやるが削るべきものは削る、選択と集中でやるというのがどこの地方行政もそうなんです。ですから、本当これやって、あれやって、都市部だったら、減税独自にできるところもあるかもしれません。でも松山は、なかなかそういう状況にはない。ですからどこの首長も今厳しい財政を預かって、やるべきことはやる、でも削減もせないかんということでみんな頭を悩ましながらやっているところです。ちょっとまとめてお話をさせていただきました。

【男性】 今市長が言われたこと、私が言おうと思ったところなんです。私民生委員で、独居老人の家庭を回ってますけど、私のほうに生活保護認可しましたよと入ってくるんですね。「え、この人が何で生活保護」と。我々が子どものころは三津浜支所にずっと生活保護の受給をならんどったですよ。そしたら「恥ずかしいな、なんで生活保護もらわないかんのか」と子ども心に思っているんですが、今は全部銀行振り込みで「私給料もろたら金払うけん」という時代になっとなるんですよ。東日本の大震災以降ものすごくゆるくなっとなる、生活保護の認可が。見たらやっぱり働ける人は働いてもらって、そういうのを野志市長1期目で大改革をして、財政国をあげて生活保護、医療、赤字や赤字や言わずに、もう野志市長やってくださいや。松山市から手挙げて大改革をお願いします。

【保健福祉政策課長】 福祉部のほうで申し上げますが、生活保護につきましては現在、就労支援を市をあげて取り組んでおります。例えばハローワークを退職された方、専門家、こういった方に来ていただいて、その方うちのケースワーカーと生活保護を受給されとる方で少しでも就労につながる支援をしております。23年度においても119名の方を就労につなげるといったことを進めておりますので、松山市では甘く生活保護を受給するのではなくて、生活保護を受給しておっても働ける方は働いてもらう、あらゆる支援に取り組んでおりますのでご理解を賜ったらと思っております。

【市長】 私から、税と社会保障の一体改革というのをよく聞くとするんですが、もう本当に地方自治体がやれる限界まで来ました。もうこれ以上は無理ですというところまで来てしまいました。税と社会保障を一体となって改革しましょうと

いうのを、中村知事が全国の知事会を代表して税と社会保障のメンバーに入ります。今日も原子力の会議があったんで愛媛県知事と県内の20の市長、町長が集まって会議やったんですが、国はひどいんですよ、例えば乳児、幼児の医療ですね。国がやってくれないから我々地方公共団体でやってきたんですよ。ほんなら地方が勝手にやったことやから知らん、みたいなスタンスなんですよ。ですからそのへん、何を言っているんだということやってるんですけど、とにかく我々も生活保護の適正化にも努めているところですし、私から皆さんに1つだけお願いしたいのは、できるだけ歩いていただくということなんです。これは「もうわし足痛いのに、腰痛いのにこらえてや」という人に鞭打つ話じゃなくて、国でデータが出てるんですけど、国民1人がおよそ3千歩よけいに今までより歩くと、国全体で2,700億円の医療費が削減できるといったデータがあるんです、生活習慣病の予防になっていきますから。例えば生活習慣病から脳卒中、脳梗塞なったら体が麻痺してしまいます。状態にもよると思いますが、そのままずっと寝ていたらなかなか回復しにくいと思えますけど、がんばって出てもらって歩いてリハビリをしていただくと、いい方向になるっていうのがあります。ですのでできるだけ歩いていただきましょう、そして我々も歩いて楽しいまちづくりをしますっていうので、今花園町通りっていうのが話出ていると思えますけれど、それもその一環です。歩いて楽しいまちづくり、皆さんにできるだけ歩いていただいて健康になって思いもあります。これからのまちづくり大事なことです、これが。

【男性】 伊予源之丞保存会でやっておりまして、初めに魅力の中で言っていたんですけど、伊予源之丞保存会の中の話ですけど、世代交代をしてやっておりまして、今2演目やることができるんですけど、新しい演目も昔やっていた演目なんかもこれから少しずつやっていこうということで取り組んでおりまして、いろんな場に出ていってということなんですけど、松山市の観光イベントとかの中でもしできる場があればぜひ市長さんにも見ていただきたいとも思いますしやっていけたらと思うので、そのことが1点と、もう1点、これ無形文化財にはなっているんですけど、頭の修理とか衣装の保全保存に非常に多額の費用がかかるということで今補助も若干はいただいているんですけど、かなりの道具がありまして維持していくのに費用がかかるのでそういったところでも今後色々ご支援いただけたらと思います。その二点ですけど。また今後ともよろしくお願

します。

【市長】わかりました。重ねてになりますけど、本当に伊予源之丞見たいと思います。このことについては。

【生涯学習政策課長】 はい。伊予源之丞ですね、いろんな県下の大会、文楽の合同の大会でも出演されてる、ついこの間もあったと思いますけれども、それとか松山市の市民文化祭にも出られてるということで、いろんな出席要請とか参加できるような案内がありましたらまたお知らせしたいと思いますので是非松山市、或いは県外でもご活躍いただければと思います。それと修理と言いますか、頭とか衣装の関係ですが、県指定の無形民俗文化財とともに有形民俗文化財でもあると伺ってます。修理費用につきましては、県の補助金が出るということで来年度、修理要望を市を通して出しております。県の補助が出たら、市の補助も出して、頭の修理とかに使っていただいている経緯もありますのでまずは県の結果待ちになるうかと思えますけど、これからもまたお願いしたいと思います。

【男性】 よろしくお願ひします。会員、仕事もってしてるので、平日はなかなか行くのが難しいかもしれないですけど、極力調整しもって参加していきたいと思ひますので今後ともよろしくお願ひいたします。

【男性】 松山市全体のことになるんですが、小中学校に教室に1～2台扇風機を設置してもらいたっていうことですけど、今は授業中に下敷きを仰ぐような現状ですけど、扇風機があればみんな快適に過ごせるし、授業も集中できて熱中症対策にもなっていることだと思うので是非よろしくお願ひします。

【市長】 はい、これは、扇風機導入しようとしてたんです。今年度、予算も付けてたんですけど、東日本大震災がありまして、全国から注文が殺到して、扇風機の確保がままならなかったと記憶してます。以前に比べてかなり暑くなってますから、扇風機は導入しようとしてます。実際にやっています。また、校舎を変えるときには、断熱材をするとか、緑化をするとかいう形でもできるだけ暑くならないようにしていきたいと思っています。

【女性】 中学校の近くの鈴木マンションの前が大雨が降ったら冠水してしまって、そこの人等がくるときにずぶ濡れになったり来れんかったりしたりしてます。

【下水道政策課長】 平成13年に大雨が降りまして、この古三津地区でも被害が出ました。床上浸水がありました。そういう地区が10地区市内ございましてそれ

らを今 10 年計画で整備をしているところです。そういう中で三津駅のちょうど裏に中須賀ポンプ場がございますが、今ポンプを新築をしてそれにあわせて管渠の整備もしています。できるところから順次やっています。それができるまでも応急対応もしていきますので場所等後ほどお聞きしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【男性】 児童の通学路の安全対策です。私らの地区は古三津 3 丁目の一部と隣のみどりヶ丘、その児童は宮前校区だったんです。ところがみどり小学校ができた段階で校区編成でみどり小学校の方に入れられたわけです。その当時父兄も通学路が危ないから編入は反対したんですけど、「通学路の安全対策はするから、対策はとるから校区編入に賛同してくれ」ということで仕方なくみどり小学校校区に入りました。ところが 20 年経った今もその道路の危険度はまったく変わっておりません。なんら改善されておらないので、それができないのであればもとの宮前校区へ返してもらいたい、それがひとつです。もうひとつ中学校に入るときはその子供達はみどり小学校から分かれて三津浜中へ入るんですね。三津浜中は宮前と三津浜小学校の児童がおるわけですが、そこへみどり小学校の少数の者が入っていくということでなかなか学校の環境に慣れにくいと思います。そういう面もありますので、通学路の安全対策ができないのであればもとの宮前校区へ入れていただきたいというのが意見です。

【市長】 確か松山西中等教育学校の近くと思うんですけど。あれ経緯が。

【都市政策課長】 只今のご質問ですけど、この区間につきましては平成 2 年から地元と協議などを行いながら、ご存知だとは思いますが、公図が混乱してるとか土地の権利関係の確定などまだまだ解決しなければならない問題点がございます。例えば市道内に民地があるとか、また地図混乱地域であるとかそういう色々問題あるんですけどその解決に向けて今現在関係者と協議しながら進めております。来年度以降、測量とか土地の調査を実施する予定ですので、1 日も早い工事の着手に今後とも努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

【市長】 今のちょっともう少しゆっくり。市道に私有地が混在してたりするんですかね。そこちょっともう 1 回。

【都市政策課長】 この地区は公図が確定されてない状況で、それぞれ確定するためには全体のある程度の関係する人達が集まって境界を決めなければならない

という問題もあります。また、例えば納税猶予という関係もございましてそういう問題を解決する形で来年度以降測量とか家屋調査とか土地の調査とか行いますので今後実施に向けて市の方も取り組んで参りますのでよろしく申し上げます。

【男性】 可能性があるんですか？

【都市政策課長】 あると思います。

【男性】 20年経って

【都市政策課長】 やはり理由があるわけです。それなりに。それで頑張ってくださいから。

【男性】 すみません、一言だけ。県道19号線の三津浜駅のところに新田高校、聖陵それから北条高校かそれから西高の自転車の学生が通るんですが、あの19号線に自転車レーンを作る予定はどんなんでしょうか。今の若い人はね、自転車に乗りながら携帯電話見ながら、危ないんです。歩道の上歩くんですよ。全部自転車がね。そういうんで事故が起こったんじゃないけませんから、19号線の歩道の上いっぺん見て下さい。時間帯がきたらね、もういっぱい。何ですよ、携帯電話見ながら自転車に乗ってくるんで困るんですよ。この辺をひとつ宜しく申し上げます。

【市長】 そうですね。

【市民部長】 今自転車の通行についていろんな問題があって、交通事故の問題とかマナーの問題とかあります。これ最重点課題で、社会実験をやったり色々やっていますのでこれについては市民の皆さんのご理解とご協力を得ることがたくさんあると思いますのでまたそのことも含めて持ち帰り回答させていただきます。

それから先ほどの地図の混乱のところ、わかりにくかったと思うんですけど、今担当課では前向いて進んでおりますのでご理解いただきたいと思います。大変難しい案件だと聞いております。全体の地図が本来あるべきところになかったり、無いものがあったり非常に難しい問題を悪戦苦闘して少しずつ動いとると聞いておりますのでお待ちいただいたらと思います。また改めて報告させていただきます。

【男性】 期待しております。

【司会】 それでは時間が参りました。今日は非常に時間が経つのが早くてご発言いただけなかった方もいらっしゃるかと思いますが、最後に市長から。

【市長】 今日、15回目のタウンミーティングだったんですけど、今日が一番時

間が早く過ぎたように感じております。本当は手を挙げて言いたかったんだけど言えなかった方もいらっしゃるのではないかなと思いますので、市長へのわくわくメールというハガキもございます。またインターネットで私のところにわくわくメールという形で届く仕組みもありますのでどうぞそういったもの使っていただいてせっかくのご意見ですので言っていたらと思います。これからも、宮前の魅力づくり、宝磨きが大事です。宝というと宝探して言葉つながることも多いと思うんですが宝はあるんです。虎舞も宝、お神輿も宝だと思います。伊予源之丞も宝だと思います。俳句、句碑がいっぱいあるのも宝だと思います。宝はいっぱいあるんです。なかなか厳しい財政であっても宝磨きすることはできると思うんです。それぞれの心の中でもまたできることだと思います。しっかりと皆さんと協力をしながら、意見もいただきながらまちづくり進めていきたいと思っておりますのでこれからもどうぞよろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

—— 了 ——